

友達とのよりよい関わり方を考えよう 「ふわふわ言葉とちくちく言葉」

小学校第3学年 学級活動

1 題材設定の理由

- (1) 活動内容・項目
 - (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
イ よりよい人間関係の形成
- (2) 題材設定の背景及び児童の一般的な実態と現状

小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 特別活動編

＜第2章第2節 特別活動の基本的な性格と教育活動全体における意義＞より引用

第3学年になると、集団における個々の結びつきや集団としての閉鎖性が次第に増え、協力して豊かな学級生活をつくろうとする小集団による活動が盛んになる。また、この時期は、集団感情や集団意識が強くなり育ってきて、いわゆる「われわれ意識」などの社会意識が高まってくる。しかし、指示する者とされる者が次第にはっきりしてきて、それぞれの小集団が分立し、集団同士の対立や集団に安易に賛成するような行動も見られるようになってくるなど、学級全体としてのまとまりが育ちにくい時期でもある。集団活動を行うにしても、それぞれの集団での活動目標について、ある程度共通に理解し、持続して活動することができるが、まだ、個人的な興味・関心や要求に動かされることが多く、その集団に所属する成員の間にはっきりとした社会的関係があらわれにくい。

2 指導目標

授業と「友達と関わる学習」を通して、日常的に使っている言葉が、相手を悲しい気持ちにさせるものなのか、うれしい気持ちにさせるものなのかを考えさせ、友達へのよりよい関わり方を身に付けさせる。

3 指導法・指導上の留意点

本時では、事前アンケートの結果から互いに使う言葉によって気持ちが変わることを児童に気付かせ、友達への言葉遣いについて考えさせていきたい。そこで、構成的グループエンカウンター「ふわふわ言葉とちくちく言葉」を取り入れ、相手を悲しい気持ちにさせる「ちくちく言葉」と相手をうれしい気持ちにさせる「ふわふわ言葉」に分類する活動を取り入れる。児童が日常的に使っている言葉や周りの人から言われた言葉の中でどのような「ちくちく言葉」や「ふわふわ言葉」があったかを想起させ、一枚の模造紙にまとめながら日常的に使っている言葉が、相手を悲しい気持ちにさせるものなのか、うれしい気持ちにさせるものなのかを児童一人一人に考えさせていきたい。さらに、本時で分類した言葉を掲示したり、事後指導の「友達と関わる学習」に取り組みせたりすることで、今後も日常的に友達への言葉のかけ方を考えながら生活できるようにさせていきたい。

4 指導計画

- (1) 事前・事後指導
 - ＜事前指導＞ 事前アンケートを実施する（実態調査）。
 - ＜本時＞ 学級活動「ふわふわ言葉とちくちく言葉」の授業を実施する。
 - ＜事後指導＞ 「友達と関わる学習」を実施する。
- (2) 教科指導等との関連
 - 道徳：内容項目－10 友情・信頼
友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。

5 本時の指導
 (1) 指導過程

本時のねらい		普段使っている言葉を「ふわふわ言葉」と「ちくちく言葉」に分類することを通して、今後の友達に対するよりよい言葉の使い方を考えることができる。		
段階	活動	活動の内容	指導上の留意点	【評価】・ ◇資料
導 入	アイスブレイク 【5】	(1)「ほめほめじゃんけん」をする。	○ペアでじゃんけんを行い、じゃんけんに負けた人が勝った人のよいところを見つけてほめる。ほめられたら互いに「ありがとう」と言って別れ、次のじゃんけんの相手を探す。 モデリングを通して、いろいろな人とほめ合うことを伝える。	
	課題把握 【10】	(2)事前アンケートの結果をもとに話し合う。 ・友達の言葉で楽しくなった人は多いな ・悲しい気持ちになった人もいるな (3)本時のめあてを設定する。 言葉について考えよう。	○事前アンケートの結果を提示し、結果から気付いたことや考えたことを話し合わせ、本時のめあてを設定する。	◇アンケート結果
展 開	エクササイズ 「ふわふわ言葉とちくちく言葉」 【20】	(4)「ちくちく言葉」について話し合う。 ・「うるさい」は「ちくちく言葉」だと思うよ (5)「ふわふわ言葉」について話し合う。 ・「ありがとう」は「ふわふわ言葉」だね (6)今後の言葉の使い方について話し合う。	○日常生活で使っている言葉には、相手をいい気持ちにさせる「ふわふわ言葉」と悲しい気持ちにさせる「ちくちく言葉」があることを伝える。「ちくちく言葉」にはどんな言葉があるのか、話し合わせる。児童から挙げられた「ちくちく言葉」を模造紙のハートの枠外に記入する。 ○「ふわふわ言葉」にはどんな言葉があるのか考えさせ、その言葉を付箋に記入させる。 ○書いた付箋を、グループで発表させる。 ○付箋を模造紙のハートの枠内に貼り付けさせる。 ○「ちくちく言葉」は使わないという児童の意思を確認し、模造紙のハートの枠内は残して掲示し、今後も「ふわふわ言葉」を書き足していくこととする。	◇模造紙 (ハート型) ◇付箋 【評価2】
	終 末	振り返り 【10】	(7)本時の活動を振り返る。	○児童一人一人に本時の学習活動を振り返らせるため、振り返りカードへの記入の時間を十分にとった後で、全体での振り返りを行う。

(2) 評価計画

【評価1】	【評価2】	【評価3】
知識・技能 ＜本時＞	思考力・判断力・表現力等 ＜本時＞	学びに向かう力・人間性等 ＜友達に関わる学習＞
普段使っている言葉には、相手を気持ちよくさせる「ふわふわ言葉」と不快にさせる「ちくちく言葉」があることが分かる。	「ふわふわ言葉」と「ちくちく言葉」の分類を通して、友達へのよりよい言葉の使い方を考えることができる。	友達に対するよりよい言葉の使い方を、今後の生活に生かそうとしている。

(3) 準備物

- ・ アンケート結果
- ・ 模造紙 1枚
- ・ 付箋
- ・ 振り返りカード

(4) 板書計画

言葉について考えよう。	ちくちく言葉
表：事前アンケート結果	

6 事後指導（友達と関わる学習）

- (1) ねらい
ソーシャルスキルトレーニングを通して、友達へのよりよい言葉のかけ方を身に付けることができる。
- (2) 場所
教室
- (3) 時間
毎回5分程度

(4) 学習計画

回数	活動の内容	○指導上の留意点
1	◇学活の授業の「ふわふわ言葉」を、「ほめ言葉」と「はげまし言葉」に分類する。	○本計画の3回目と4回目の学習活動において、児童が適切な言葉を友達におくれるようにするため、学級全体で「ほめ言葉」と「はげまし言葉」を分類させ、視覚的にとらえられるようにする。 ○新たに見つけた「ふわふわ言葉」については、その都度、付箋に記入させ模造紙に貼らせる。 ○振り返りカードに自己評価させる。
2	◇「上手な聴き方」を行う。	○教師が話を聴くモデリングを行う。 ○ペアで交互に、「朝起きてから、登校までの出来事」について30秒間話をさせる。聞き手の児童に、視線を合わせたり、うなずいたりするなど、上手な話の聴き方を体験させる。 ○振り返りカードに自己評価させる。
3	◇「ほめ言葉」をおくる。	○教師が「ほめ言葉」をおくるモデリングを行う。 ○ペアで交互に、「最近がんばったこと」について話をさせる。聞き手の児童に気持ちを込めて「ほめ言葉」をおくる体験をさせる。 ○振り返りカードに自己評価させる。
4	◇「はげまし言葉」をおくる。	○教師が「はげまし言葉」をおくるモデリングを行う。 ○ペアで交互に、「最近失敗したこと」について話をさせる。聞き手の児童に気持ちを込めて「はげまし言葉」をおくる体験をさせる。 ○振り返りカードに自己評価させる。
5	◇これまでの活動をふりかえる。	○振り返りカードを見ながら、気付いたことや考えたことを記入させる。 【評価3】

(5) 準備物

- ・ 模造紙（学級活動の授業中に使用した物）
- ・ 付箋
- ・ 振り返りカード（児童数分）